

『蜻蛉日記』町の小路の女「ワークシート」

二年 組 番 ()

問 皆さんは、藤原道綱母の友人です。どうやら、本日も夫・兼家のことで相談に来たようです。内容は教科書の通りです。皆さんは、藤原道綱母の心が軽くなるような声かけをしてください。ただし、道綱母の性格や当時の歴史的事実を踏まえた上で、内容を作ってください。また、同時代の女性の考え方を参考にすることもとします。

【参考】平安時代の恋愛と結婚

◎結婚について
平安時代の結婚は、「妻問」といって男性が女性の家に通う、「通い婚」が一般的で、一夫多妻制である。当時は厳しい身分社会だったので、結婚においても相手の家柄が重視され、多くの結婚は家同士の間での了解のもとに進められた。
(大修館書店『言語文化』 p. 一九九)

◎恋愛について
(1) 恋の始まりは、人づてに評判を聞いたり、「垣間見」したり。
(2) 求愛から交際までの道のりは、和歌のやりとりによる。和歌が上手くなければだめ。
(3) 三晩続けて女性のもとに通うと、結婚成立。子どもは女性の家で養育。男性が長く女性のところを訪れないと、夫婦関係は自然解消する。
(大修館書店『言語文化』 p. 一九九-二〇〇)